

友

友の会 会報

TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART



〒039-2501
青森県北七戸町字荒熊内67-94
七戸町立鷹山宇一記念美術館内
鷹山宇一記念美術館友の会
〈TEL〉0176-62-5858 〈FAX〉0176-62-5860
〈e-mail〉takayamamuseum@ruby.plala.or.jp

「鷹山宇一のアトリエ」

子どもたちの絵画展「鷹山賞児童作品展」を開催するこの時期、必ず展示する鷹山宇一の資料に「画家のアトリエ」があります。

1999年10月25日、主を失ってから、しばらくひっそりと時間の止まったままだったアトリエは、緩やかに流れる時のまにまに「遺族により整理され、数々の遺品が生まれ故郷の鷹山宇一記念美術館に納められました。愛用の机、絵の具や筆などの道具たち、描きかけの作品、壁に掛けられたカレンダーや雑誌を切り抜いたお手製のスクラップ帖、そして御菓子の箱を再利用した小物入れ……。制作活動や日常生活を垣間見させるモノはもろろんのこと、お人柄や画家としての精神までもが隅々にまで行き届いている、そんな資料たちばかりです。

アトリエは六畳ほどの小さな部屋であったと聞きます。重鎮を成した画家のイメージから言えば、もつと広くて、制作に集中できるような静かな空間を想像しますが、鷹山宇一は違いました。

「リビングに予定していた台所の隣にある部屋をわざわざアトリエにして、家族の話し声や孫たちの笑い声、台所からの生活の音を聞きながら、絵筆を握っておりました。あるとき、私が仕事の邪魔になるだろうと騒いでいる孫たちを外に連れ出しました。しばらくして帰宅すると、父は台所のテーブルの椅子に腰をおろし、ひとりポツンとテレビを見ておりました。静かすぎて絵が描けない、と云い、誰かひとりには家に残るよう命じました。」長女の鷹山ひばり(美術館長)はこのように追想しています。

鷹山の静謐で叙情的な作品の背景には、愛してやまない家族たちの存在があり、穏やかであたたかな日常生活から、作品は生み出されている……。再現されたアトリエを前に、しばし、鷹山宇一という一人の人間に思いを馳せます。

「鷹山宇一のアトリエ」は、絵の道一筋に生きた画人の生涯を静かに語りかけてきます。是非子どもたちには見て欲しい、展示のひとつです。

(宇一自 大内 里希子)

「第37回日展」私勢展と
「奈良美智展」を訪ねて 研修旅行記

「感動を覚える二つの作品展」

七戸町／船山義郎

去る9月27日、県立武道館を会場とする「日展弘前展」と吉井酒造煉瓦倉庫内での「奈良美智展」を観ることができた。

「日展弘前展」の作品は、二百八十五点に及び、現代日本芸術の中核を担う作家が精魂込めた日本画、洋画、彫刻、工芸美術、書と広範にわたり、「美の世界」に魅了された。

特に、私が好む紫色を基調とした怒濤の海の彼方に光明が差す「海鳴り」という日本画に釘付けとなり、その場を立ち去りがたい衝動に駆られた。これという理由はない。ただ、この作品が不屈の魂を宿すことこそ真の人間たる生き方であると訴えているようで、私にはできない憧れの生き方の想いが重なったような錯覚に陥ったからかも知れない。

まさに、優れた作品を眼で触れ、肌で感じ取る心地よさは喻えようもない。

次の「奈良美智展」であるが、年輪を刻み歴史の重みを感じさせる倉庫のなかに、独特な形をした幾つもの

の小屋があり、作品を下から見上げたり、上から見下ろしたり、覗き込



「第37回日展」弘前展会場・県立武道館前にて

んだりして鑑賞した。それだけに、作品の中心である女性の素顔の表情には、喜怒哀楽という心の繊細な動きによって微妙な違いがあり、感動を覚えずにはいられなかった。この展示の仕方は、常識を超えた意表を衝くものであったし、数多くのボランティアに支えられ運営されていたのが印象的だった。

この二つの作品展を観て、描くことが叶わなくても、機会があれば今後も優れた作品に触れたい想いを強くしたし、当町の小市民的な記念美術館の永久の存続を願っていることを知ることができた。

このことが、今回の研修会で得た最大の収穫かも知れない。

「心は奈良ワールド」

七戸町／縄田優子

しっとり和小雨が降る中、心待ちにしていた奈良美智「A to Z」展を鑑賞。ひっそりたたずむ酒造煉瓦倉庫。しかし、巨大な何かを内に秘めているようなそんなエネルギーを感じさせつつ…

奈良ワールド一色！かび臭い酒造庫の中に広がる

幾つもの小屋！発見しました。あの、印象的な大きい顔に瞳。淡い色使い。脳裏から離れない。あの瞳に見入っていると、ふと感じたことがありました。これは奈良さんの心の叫び・葛藤・孤独・戦争・平和・安らぎ…と様々な気持ちの表れなんでしょうか…すねているように見えるけども、真っ直ぐな瞳、眼が離せなくなります。

一番気に入った小屋がありました。真っ黒い闇の部屋。天井には星。正面にうつすら微笑む黒髪の顔の大きな女の子。でも、暗闇に居ても怖くないんです。自然の光、星の明かりが女の子を照らして、体全体を守られている感じ。果てしない闇夜には、星の明かりという希望の光で、全世界を照らしているように感じられて。感動しました。

見る人に様々な感情を抱かせる絵、鑑賞できて本当に良かったです。遅ればせながら奈良ファンになりつつある、私の感想でした。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆
平成18年度友の会研修旅行(全3回)は、多くの会員のご参加を頂き、無事終了しました。

次年度も県内外の美術展研修を企画しますのでご期待下さい。
また、来年6月には第3回目の海外研修「フランス美術紀行の旅」が実施されます。若干名の追加ができますので、参加ご希望の会員はお申し込み下さい。
詳細は、美術館まで

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

鷹山宇一
記念美術館
News & Report
2006年12月15日
発行



▲第7回目となる「遊蝶記」。小雪の舞う寒い1日となりましたが、「遊蝶記の集い」には友の会会員をはじめとする43名もの多くの方々をご参列くださいました。賑やかで心あたたまる鷹山宇一先生誕辰記念日となりました。



▲あいおい損害保険株式会社広報部長・平根浩次様(右)。「遊蝶記の集い」へもご参列くださいました。来年春、当館特別展として開催予定の「椿絵名品展(仮称)」打合せのため年末のお忙しい中をご来館くださいました。「椿絵名品展」は日本画、洋画、工芸と我が国を代表する作家たちによる国宝級の名品たちを一堂にご高覧いただける特別展です。詳細は次号でご案内いたします。お楽しみに！

鷹山宇一先生誕辰記念日
「遊蝶記」から

鷹山宇一先生が逝去されてから、美術館では先生の誕生日にあたる12月10日を「遊蝶記」として記念し、先生を偲ぶ1日を過ごしています。「遊蝶記」とは、花と蝶を描く画家として知られる先生の作品に度々登場する作品名「遊蝶・花」からお名前を頂戴し、「記憶」「記録」「記述」のように、憶えておく、書き記しておくとの意味合いを込めて命名されたものです。

本年も、「鷹山宇一の世界」をひとりでも多くの方々に鑑賞いただけるようにと、美術館を終日無料開館しました。また、「遊蝶記の集い」では、ハッピーバースデーの歌を皆で歌い、バースデーケーキの口ウソクの火を吹き消して、今もなお私たちの心に生き続けている鷹山宇一先生98回目の誕生日を祝いました。



▲30万人目の記念入館者となった山崎キミエさん(中央)

開館以来の
総入館者
30万人を達成

安野光雅展開催中の9月27日(水)、平成6年8月1日の開館から12年を経て、鷹山宇一記念美術館の入館者が30万人に達しました。記念の来館者となった十和田市の山崎キミエさんは、当館へは3度目のご来館。今回はご友人に誘われて安野展鑑賞にお出掛けくださいました。

これを通過点に、これからも魅力あふれる、皆様可愛される美術館を目指して運営に尽力してまいります。今後とも指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



鳥谷幡山ご令孫
野谷善達さんご来館

鳥谷幡山は七戸町出身の日本画家。当館収集作家のひとりです。そのお孫さんにあたる野谷さんが10月9日ご夫婦でご来館になりました。

当館が収蔵する幡山作品のひとつは、野谷さんから七戸町へ寄贈されたもので、当館の幡山コレクションの中心となっています。お仕事の関係で長く米国シアトル在住でしたが、定年退職されてすぐ、幡山ゆかりの地を訪ねるこの旅行に出られたとのこと。会報37号10周年記念特別号に、作品寄贈の経緯、また野谷さんが記憶する祖父幡山の印象などを寄稿いただいております。是非ご参照いただきたいと思います。

永住権を持つ米国で再就職された野谷さん。今後ますますのご活躍、ご健勝をお祈り申し上げます。後日またお目にかかれる時を楽しみにお待ちしております。ご来館いただきありがとうございます。

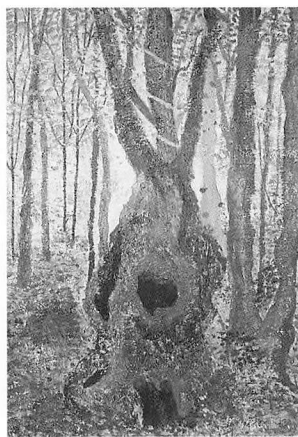
1 / 28 迄好評開催中!

第6回 鷹山賞児童作品展 地球環境世界児童画 コンテスト優秀作品展

「子どもの感性は風土の中で培われる：」鷹山宇一が生まれ育ったこの七戸町に建つ美術館で、画家の作品と対峙したとき、その原風景が彼を育んだふるさとの中に確かに存在していることに気付きます。

青森県南部地方の小中学生に作品を公募した絵画コンテスト「鷹山賞児童作品展」は、制作活動を通じて創造することの楽しさ素晴らしさを感じていただけたなら、そして、第二の鷹山宇一の誕生を願って開催し、本年第6回展を迎えました。応募総数はこれまでで最高の1,051点。多くの力作の中から入賞28点入選93点が選ばれています。

【小学生の部】



最高賞の鷹山賞受賞作品

【上】三春綺華さん(南部町立名久井小学校5学年)「クヌギの木」(アクリル絵の具砂)
【下】村松育実さん(三沢市立第五中学校2学年)「生命」(水彩)

【中学生の部】



10/4、5 作品審査会を開催



▲審査員長・濱田進先生(左)

テーマに作品を公募した、第6回地球環境世界児童画コンテスト(主催・財団法人日本品質保証機構、国際認証機関ネットワーク)から優秀作品に選ばれた70点と併せてご紹介しています。

子どもたちによる子どもたちのための絵画展ですが、その作品を前に私たち大人は「ハッ!」としたり「ウーン」と唸ったり…。忘れかけていた何かを思い出させてくれます。お子様はもちろん、大人の皆様も是非ご覧ください。ご来館をお待ちしております。

11/18 入賞者授賞式を開催



▲第6回展入賞入選作品が展示された会場において授賞式を開催。



【写真右】授賞式終了後はお祝いのパーティーを開催
【写真左】「名馬の産地・七戸」をイメージして作られた鷹山賞副賞。鷹山宇一先生の孫で彫金作家の片山雄介氏が制作。ステキな副賞です!

「美術館子どもたち展」併催

美術館が主催する子どもたちのワークショップ(体験講座)「あくっとくらぶ」「いちようっ子くらぶ」で制作した作品をはじめ、八戸市みなとまちづく



り女性フォーラム主催による八戸市・洋野町・七戸町の子どもたちによる交流事業「山海子どもサミット」から、八戸港や海を描いた作品を紹介しています。

栄えある入賞者28名を讃えて行われた授賞式では、多くの来賓、保護者、学校関係者の方々が見守る中、一人ひとりに賞状と副賞が手渡されました。授賞式終了後は懇親会を開催し、未来のアーティストたちの受賞を祝いました。

博物館実習レポートから

本年当館では6名の実習生を受け入れました。実習を終えての感想を今号から3名にレポートしていただきます。

北里大学獣医畜産学動物資源科学科4年

林慶和

私は今回、博物館実習先として七戸町立鷹山宇一記念美術館で10日間お世話になりました。実習最終日が第6回鷹山賞児童作品展の入賞者授賞式、そして次の日から、鷹山賞児童作品展の入賞入選作品展と地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展が始まるため、実習期間中は主にこの新たな企画に向けた準備作業の手伝いを行いました。

前半の5日間は、鷹山賞展の展示作品のための台紙作りやパソコンを使っての作業、雑用が中心で、どちらかと言えば事務的な仕事が多かったように思います。しかし、そんな中で世界児童画展の展示計画の作成という仕事を任せられました。初めてのことで戸惑いましたが、学芸員の方にアドバイスをもらったり、昨年度の展示風景の写真を参考にしながら作成することが出来ました。作品と展示壁の余白とのバランス、作品の高さや配置の仕方など、細かな点までしっかり気を配ることで、見る側の視線を考えた見やすく美しい展示になることを、この展示計画の作成を通して実感しました。



▲鷹山賞展展示替え期間にあわせ実習していただいた北里大学の3名。【右】林くん 【中央】松井さん 【左】齋藤くん。社会人としても立派に務めを果たすことが出来るであろう、そのような思いを抱かせる素晴らしい3名でした。

後半の5日間は、常設展の展示替えや展示計画をした世界児童画展の作品展示、式典の準備などを行いました。世界児童画展の作品展示では若干の手直しを受けたものの、だいたい私の作成した展示計画をもとにすべての展示作業を任せられました。展示作業は自分が思っていた以上に手間がかかり大変で、展示の難しさを実感しました。

10日間という短い間でしたが美術館の業務を体験させていただきました。館の業務を体験させていただき思ったことは、学芸員の仕事は「多様である」ということです。事務的なことから力仕事、繊細でセンスの問われる作業など幅広い仕事をこなし、そのすべてに責任を持ち、決して妥協せずに取り組む姿勢はとても勉強になりました。この専門家としての意識は見習っていかうと思えました。最後に、私を実習生として快く引き受けてくださった鷹山ひばり館長をはじめ、熱心に指導してくださった学芸員の方、美術館の皆様には貴重な体験をさせていただきとても感謝しています。本当にありがとうございました。

子どもたちのためのワークショップから Report!!

いちょうくらぶ
あ〜と!くらぶ

「いちようっこくらぶ」からは、7月8日に制作し、9月24日に講演会を開催した『テラコッタづくり』の様子をご紹介します。

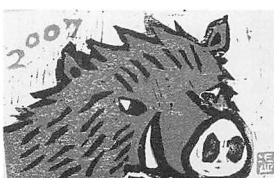
講師は彫刻家・二科会会員の島田紘一先生です。参加者は中高生ボランティアを含めて17名。2階の工房はいっぱいです。倉岡の大銀南木を見学しに出かけ、そのイメージをもとに作品を制作しました。ほこらを作る人、立っている木を作る人、イチヨウの絵を描いたプレートを作る人など色々です。午後は、自分の顔を鏡で観察しながら作品を制作しました。難しかったのは「目」の表現です。『目は顔の上にべたっと乗っか



「あ〜と!くらぶ」からは、多色刷り木版画の様子をご紹介します。昨年同様、元奥入瀬小学校校長の藤谷芳雄先生を講師にお迎えし、今年度は全5回の教室を実施しました。1〜3回目は用意した下絵を板に写し、小さな作品を制作しながら多色刷り木版画の原理を学びました。最初はなかなか仕組みが理解できな



せんでしたが、制作を続けるうちに『色数II版の数』の原理と作業の進め方がわかるようになっていきました。最後の時間は、自分で考えた下絵をもとに来年の年賀状を制作しました。木版画とは思えない出来栄えにびっくりです。藤谷先生、丁寧なご指導、本当にありがとうございました。



● 美術館日誌 ●

【9月】

- ▼1日/三沢市職業能力開発協会35名様ご来館
- ▼2日/七彩会油絵教室開催。むつ市立川内中学校生徒・引率者9名様ご来館
- ▼7日/鷹山館長・大池青森出張(安野展PR)
- ▼9日/あつとーくらぶ「木版画④」開催
- ▼10日/南部サミット「日国替え事業で谷藤裕明盛岡市長が「一日町長」としてご来館
- ▼12日/火曜サロン。三沢市立図書館30名様ご来館
- ▼15日/第6回鷹山賞児童作品展応募締切。十和田市立法奥小学校1年生児童引率者22名様ご来館
- ▼16日/七彩会油絵教室開催
- ▼18日/友の会南仏研修旅行説明会
- ▼20日/NHKサービスセンター仙台吉村所長ご来館
- ▼22日/鷹山館長青森出張(「命を育む作文」審査)
- ▼24日/あつとーくらぶ「いちごうつつくらぶ合同「テラコッタ作り」講習会開催(講師/島田紘一呂先生)
- ▼26日/榎林保育園園児引率者19名様ご来館。ABA番組「道に歴史あり」絵馬館を取材
- ▼27日/開館以来の入館者30万人達成。友の会研修旅行開催(弘前市日展、奈良美智展)
- ▼28日/鷹山館長むつ市出張(下北

退職校長会にて講演)
▼30日/鷹山館長七戸病院にて講演。あつとーくらぶ「ステンドグラスづくり」開催

【10月】

- ▼1日/七彩会油絵教室開催
- ▼3日/七戸小学校児童・引率者12名様ご来館
- ▼4日/第6回鷹山賞児童作品展審査会開催、濱田進先生ご来館(5日迄)
- ▼7日/あつとーくらぶ「ステンドグラスづくり」開催
- ▼9日/安野光雅展最終日、総入館者数8,466名。鳥谷幡山令孫野谷善達夫妻ご来館
- ▼10日/展示替えのため臨時休館(13日迄)。老人福祉施設入居者無料招待日
- ▼12日/鷹山館長青森市出張(安野展御礼)
- ▼14日/鷹山館長青森市出張(街角フォーラム出席)。あつとーくらぶ「木版画⑤」開催
- ▼15日/友の会役員会開催
- ▼16日/スペイン民芸資料館建物水漏れ検査
- ▼18日/鷹山館長弘前市出張(安野展御礼)
- ▼19日/大池八戸市出張(あすなろマスターカレッジ受講状況視察)
- ▼20日/スペイン民芸資料館外壁クラック補修工事(齊下産業)
- ▼21日/七彩会油絵教室開催
- ▼24日/六戸町社会教育課引率団体12名様ご来館
- ▼25日/JTB郡山菜根支店「青森

県的美術館ツアー」27名様ご来館。
鷹山館長七戸町退職教職員会にて講演
▼28日/七彩会油絵教室開催。大池、古屋敷、佐伯五所川原市出張(津軽金山焼き見学)

【11月】

- ▼4日/第2回七戸町産業文化健康祭りに「美術館ワークショップの子どもたち展」出品(5日迄)
- ▼6日/鷹山館長東京出張(橋絵名品展打合せ、8日迄)
- ▼7日/大池、佐伯甲種防火管理者講習受講(8日迄)
- ▼8日/博物館実習生・林慶和さん受入(18日迄)
- ▼10日/鷹山館長青森出張(鷹山賞展副賞等受け取り)
- ▼11日/いちごうつつくらぶ「黄色いイチヨウを見に行こう」開催。佐々木高雄様(前東奥日報社長)ご来館
- ▼12日/七彩会油絵教室開催開催。鷹山館長つがる市出張(柏中学校にて講演)
- ▼14日/展示替えのため臨時休館(18日迄)。博物館実習生・齋藤寛之さん、松井ゆかりさん受入(18日迄)
- ▼15日/古屋敷八戸市出張(鷹山賞展副賞等受け取り)。R4沿いに設置の美術館看板撤去の件について国交省青森河川国道事務所担当者様ご来館
- ▼18日/第6回鷹山賞児童作品展入賞者授賞式、懇親会開催。博物館実習生3名最終日。鷹山館長十和田市出張(第42回青森県PTA研究大会)
- ▼19日/第6回鷹山賞児童作品展、第6回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展初日(1/28迄)

▼21日/RABサービ入加藤社長、高松氏ご来館(橋絵展打合せ)。七戸小学校2年生児童引率者61名様、5年生児童引率者61名様、七戸養護学校児童生徒引率者6名様ご来館

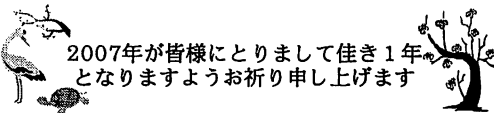
- ▼24日/七戸小学校児童1年生引率者42名様、6年生引率者67名様ご来館。鷹山館長八戸市出張(三八地区教頭会にて講演会)。第4回理事会開催
- ▼25日/七彩会油絵教室開催
- ▼28日/七戸小学校児童3年生引率者58名様、4年生児童引率者53名様、城南小学校1年生児童引率者48名様ご来館。第3回評議員会開催
- ▼29日/城南小学校5年生児童引率者43名様ご来館
- ▼30日/鷹山館長青森市、五所川原市出張(青森オータリークラブにて講話、津軽金山焼き見学)

◎ 美術館休館日のご案内 ◎

- ◆年末年始◆
12月30日(土)～新年1月2日(火)
- ◆館内整備休館◆
2007年1月30日(火)～2月9日(金)
- ◆定休日◆
毎週月曜日

※月曜日が祝日の場合は開館し翌日振替休館

2007年が皆様にとりまして佳き1年
となりますようお祈り申し上げます



(財)鷹山宇一記念美術振興会

常務理事 濱中 達男

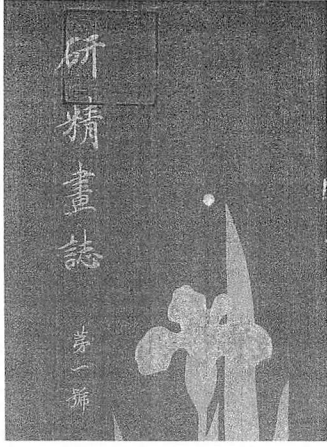
画家を志して上京した幡山は、この年(明治二十八年・二十歳)師匠広業が中心の日本青年絵画協会共進会(後の日本美術院の前身)に「竹生島奏曲図」を出品して、三等褒状を受けます。翌二十九年には「十和田日暮春色」を出品します。それ以後五十歳まで約三十年間中央画壇で活躍することとなります。

明治中期の大変革期の中、日本画の潮流に翻弄されながらも必死に闘ったように思われます。

幡山の経歴の中で主な所を辿ってみます。

明治三十年(二十二歳)

・秋田出身の平福百穂に勧められて、東京美術学校(美校)の臨時入学試験を受け、美校教授・橋本雅邦に認められ二年生に入学、宋元風の絵を学ぶ。



「研精畫誌」第1号表紙

・日本絵画協会第二回共進会に「秋月」を出品。
・同会第三回共進会に「南海観音」を出品し、二等褒状を受ける。

明治三十一年(二十三歳)

・美校ストライキ(岡倉天心校長罷免)に連座して退学。

明治三十二年(二十四歳)

・初夏、日本橋住吉町に画材料店を開店。

・日本絵画協会第七回共進会に「小児」、「衣通姫」を出品し、「小児」三等褒状を受ける。

明治三十三年(二十五歳)

・日本絵画協会第八回共進会に「とのゑの義貞」、「鶯に待月」出品。

明治三十四年(二十六歳)

・広業の天籟画塾の塾頭に選ばれる。美術研究団体の「美術研精会」(土方久元伯爵会長)の創立に参加し、美術研精会結成創立会員となる。

研究会月刊雑誌「研精画誌」を発行。以後十数年間幹事として研精会の経営に苦心する。

日本絵画協会、第十回共進会に「合奏」、「唐美人」を出品して、「合奏」が二等褒状を受ける。

日本絵画協会、第十一回共進会に「己がこころ」を出品し一等褒状を受ける。

明治三十七年(二十九歳)

・美術研精会主幹・紀淑雄が辞任し、後任は長谷川天溪となる。

明治三十九年(三十一歳)

・第4回美術研精会展覧会で銅賞受賞。

明治四十年(三十二歳)

・文部大臣牧野伸顕の公設展覧会開

設の趣旨に美術研精会を代表して進言したのが、師匠の広業の逆鱗に触れ、以降画壇においては辛酸を嘗めることとなる。

美術研精会の孤塁の死守を誓う。

明治四十二年(三十四歳)

・第7回美術研精会展覧会で銅賞受賞。

明治四十三年(三十五歳)

・美術研精会創立十周年記念展で銀賞受賞。

明治四十四年(三十六歳)

・美術研精会展覧会で首席銀賞受賞。

明治四十五年(三十七歳)

・美術研精会展覧会で銀賞受賞し、東宮殿下(後の大正天皇)が買い上げ。

大正二年(三十八歳)

・藤村義朗男爵(実業家、政治家)に誘われ、台湾・中国・朝鮮を周遊し、半年後に帰国。翌年に「支那周遊図録」を出版する。

大正八年(四十四歳)

・師匠寺崎広業五十四歳で没。大正十五年(五十一歳)

・美術研精会の職責を一切辞す。

・神・儒・仏、三教を説く川合清丸翁を訪ねる。

以下略

明治二十八年(二十歳)の上京から大正十五年までの三十年間は日本画においても激動期であり、幡山もまた憧れの東京美術学校に入学した翌年、岡倉天心に連座して退学することになり、その後は在野の画人として絵画の道を歩むこととなります。

幡山についてはこの三十年間の中で特筆すべきことが二つあります。



清韻 鳥谷幡山

氏は、寺崎廣業氏の高足なり。沈着の筆致に独特の長を有す。其研精会の創立に従事するや、拳々として倦まざる。今回展覧会開設により、特に揮毫するところ、紫雲鬘として、棚引くの碧空、金色燦然として、天女笠籐を擁して立つ。温雅にして端嚴、以て場中の珍と為すべし。
※「研精畫誌」第1号より転載

そのひとつは、野田九浦、町田曲江、飛田周山等と共に「美術研精会」を設立したことです。会長には土方久元伯爵、顧問には寺崎広業、川合玉堂、尾形月耕、小堀鞆音を迎え、主幹には美術史家の紀淑雄を理論的指導者として招き活動を開始し、研究会の月刊誌として「研精画誌」を発行します。会運営は幡山が代表幹事として会員拡大と地方巡回展などに献身的な働きを發揮します。会員は賛助会員を含め千人におよんだと記されています。

もうひとつは、大正二年、研精会で知遇を得た藤村義朗男爵に誘われて、台湾、中国、朝鮮を半年に亘り周遊したことでもあります。

画壇に留まらず財界、政界、言論界、思想界、宗教界に人脉を得たことは、その後の幡山の絵画に関する考え方と行動に深く係って行きます。

つづく

二科会評議員・吉野毅先生「三島由紀夫像」制作にっぽ??!!

二科会評議員であり、当財団の理事でもある彫刻家の吉野毅先生の個展が、本年東京日本橋の高島屋で開催されました。今後、大阪、名古屋でも巡回展が開催されます。この度、本年度二科展出品作でもあります「三島由紀夫像」(ポストカードを同封しました。)について、先生から一文が寄せられましたのでご紹介します。

三島像制作 について

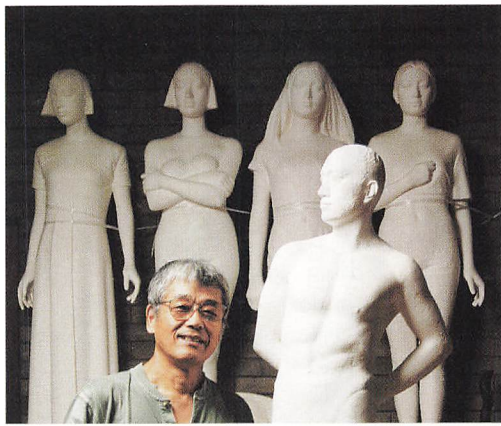
昨春、神奈川近代文学館で開催された三島由紀夫生誕80年、没後35年記念展に展示されていた、三島さんの等身像が、35年前のあの驚愕的な一瞬と、アトリエでの三島さんを、強く私に思い出させることになった。昭和45年初頭、日本画家杉山寧(三島夫人瑤子さんの父)先生から、私の義父で彫刻家の分部順治に、三島さんをモデルにした彫刻の制作依頼があり、まもなく、快活な青年のような三島さんが現れた。アトリエの大きな鏡の前で、「これで、どうでしょう」と、自慢の肉体を披露、さらにモデル台上がり、斜めの台の上でとったポーズは、まさに聖セバスチアン殉教図そのものであった。「彫刻の

イメージを話し合う余裕すらなかった」と、のちに義父は述懐することになる。

小品の三島像が完成した直後に狭心症の発作を起こした義父は、体調不良を理由に、等身大彫刻の、制作延期を申し出たが、聞き入れられず(自決後納得)。やむなく私を助手として、拡大作業が開始されたのであった。

アトリエでの三島さんは、大変冗談好きで、明るい緊張感に満ちた作業空間を、作ってくれたように思う。また絵画、彫刻に関して造詣も深く、自ら決めたポーズについても明快であった。ただ改造された肉体の説明をする三島さんが、彫刻制作の監修者になってしまった面もあったように思う。

この文学館での三島像との対面が、私に同じポーズでイメージの違う三島像制作の契機になったのである。



三島像と吉野先生 アトリエにて
写真提供：東京フォト・アーガス

あの自虐的とも見えるポーズの中に、男の恍惚状態を現した美しい一瞬があった。それは三島さん自慢の個々の筋肉の輝きではなく、全身の量の流れの美しさであった。しかし制作は、イメージばかりが先行し、形が量にならず、彫刻の奥深さをあらためて感じた暑い夏であった。

「古い自体が不治の病だ」といことは、人間存在自体が不治の病だといふに等しく、「われわれの肉体そのものが病であり、潜在的な死なのであった」(三島由紀夫『天人五衰』)
平成18年11月
吉野毅

友の会会員登録の更新と 新規会員入会お誘いのお願

本年も会員の皆様には、多大なお力添えをいただき、誠に有難うございます。新しい年も鷹山宇一記念美術館の応援と会員の皆様方に芸術・文化に一層親しんでいただけるよう研修旅行、講演会などを企画し、微力ながらも地域文化に寄与していく所存でございます。皆様には一層のご理解とご協力を賜りたく、引き続き会員登録の更新をお願い申し上げます。なお、更新手続きは、美術館窓口と同封の郵便振替により随時行っております。

○一般会員

会費(個人) 年度会費2千円

特典①無料入館券3枚。会員証提示により入館料2割引②ミュージアムグッズ1割引(対象外有) ③研修会、講演会への招待、優待 ④他美術館等の視察研修への優待参加 ⑤会報の配布

○特別会員

会費(個人・法人) 年度会費1万円

特典 一般会員特典に加えて
①会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者1名まで無料入館 ②新規加入の方に画集1冊贈呈

○賛助会員

会費(個人・法人) 年度会費2万円

特典 一般会員特典に加えて
①会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者3名まで無料入館 ②新規加入の方に画集1冊贈呈

③特別企画展の都度、招待券を贈呈

■詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

編集後記

★「寛容と忍耐」という言葉が思い起こされる年でした。★2007年、皆様にとって良い年でありますように。(E・T)